

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年8月10日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.37】

申し出がないから革マルはいない」とするJR総連・東労組

革マル派とJR総連、つまり党中央とJR革マル派とが対立を深め、「坂入事件」が発生した頃、東労組は2000年12月、2001年1月、それぞれ見解を明らかにした。前者の「度重なる革マル派からの組織破壊攻撃をうち砕くための見解」には、次の記述がある。

「進撃」(注:革マル派ピラ)4号の1面末尾に「わが黨員でもある組合員たちは、今こそ今回(九州労問題)の苦い教訓をかみしめて明日のJR労働運動の戦闘的展開の先頭に起とうではないか」と書かれている。- (中略) - JR東労組内においては、革マル派黨員はいないとは思いますが、もし存在し、革マル派の呼びかけに応じて「先頭に起つ」のであれば、ぜひ分会長に申し出てほしい。

そして、後者の「労働組合主義に徹し、あらゆる攻撃をうち砕こう！」には、次のように書かれている。

わが組織内にももし革マル派黨員が存在し、革マル派の呼びかけに応じて「JR労働運動の戦闘的展開の先頭に起つ」人がいたら分会長に申し出よと呼びかけた。案の定ただの一人もいなかった。革マル派よ、わがJR東労組内には、革マル派黨員も、呼びかけに応じて「先頭に起つ」ものはただの一人もない、ということである。

東労組はこのように、分会長に申し出る者がいなかったから「革マル派はただの一人もいない」と断言しているが、これで納得する組合員こそ、組合役員を除き「ただの一人もいない」だろう。それでも東労組執行部らは、未だにその主張を繰り返している。

東労組委員長(当時書記長)は革マルかどうか調べ方は「ないと思う」と証言！

また、東労組品川車掌区分会の役員が、組合掲示板から当時の東日本鉄産労(JR連合、現JR東日本ユニオン)のピラをはぎ取り、丸めて投げ付けた事件の民事裁判(2000年10月3日)で、被告側証人として東労組千葉勝也書記長(現委員長)は以下の通り証言し、誰が革マル派か「調べ方があるか」との問いに「ないと思います」と答えている。

(原告側代理人)(注:1999年1月公安調査庁「内外情勢の回顧と展望」)18ページの真ん中辺りに、労働運動の分野では、最大の牙城といわれるJR東労組において、今夏(注:1998年)開催の同労組中央本部・地本定期大会で、同派系労働者多数が組合執行部役員に就任するなど、同労組への浸透が一段と進んでいることを印象付けた」というふうに書いてあるわけですから、あなたが事実無根と言われた場合に、そのうちのどの部分を事実無根だとおっしゃっておられるんですか。(千葉)これは、革マル派が東労組の執行部に就任しているという意味ですよ。(代理人)そういうふうに読めますね。(千葉)そのようには私も読めませんというふうなことです。(代理人)それは事実ではないというふうにおっしゃるわけですね。(千葉)はい、そういうことです。(代理人)ところで革マル派という組織は、誰が革マル派のメンバーか公表しておりますか。(千葉)分かりません。- (中略) - (代理人)ある人が革マル派のメンバーかどうかということとは、東労組としては知りようがない事実じゃないですか。(千葉)知りません。(代理人)知りようがない事実、つまり調べても分からない事実ではないかという趣旨です。調べ方がありますか。(千葉)ないと思います。